

足軽辻番所サロン 芹橋生活
普請方手代日記「諸事日記」をよむ
母利美和（彦根景観フォーラム理事）

歴史と調和したまちづくりをめざして、彦根景観フォーラムと彦根辻番所の会は、毎月第3日曜日の午前10時30分から、芹橋二丁目の足軽屋敷太田邸で「足軽辻番所サロン 芹橋生活」を開催しています。

6月22日(日)は、芹橋六丁目に住む普請方手代で足軽の小野・助三郎・正好(まさよし)が、文化8年(1812年)から書いた「諸事日記」を、母利美和先生(京都女子大学教授・彦根景観フォーラム理事)と一緒に読み、足軽の仕事の実態をさぐりました。



小野正好は、普請方手代に任命され、同僚が住む芹橋六丁目に引っ越します。普請方は、藩内の街道、河川などの整備と管理をになう役所で、天保7年(1837年)には奉行の下に299人の役人がいましたが、このうち足軽が221人を占めていました。

文化9年は、6月に上水道の泥を浚渫、7月に赤土を運んで巡礼街道を補修、8月末からは松原川口の腰石垣の修理で5~6艘の舟を動員しています。9月には沖之島へ石材の切だしの検分に出張し、11月には



松原川口の浚渫を始め28隻の舟を動員しています。

城下町の草取りも、足軽の出人(動員)

によって、年8回実施しており、6月11日には足軽85名と記録されています。他にも、雪掻き、武

具甲冑の虫干し、火事や傷害事件の立ち会いなどに出向いています。また、6月には藩主の初めてのお国入りの様子が具体的に書かれ、10月3日には、藩主らによるまつたけ狩りのため、古城山(佐和山)の道掃除やまつたけを入れる桶やかごの準備をしています。さらに、善利川の出水、堤防の補修、大名行列の宿の準備、山林や街道の巡視などが記録されています。

今回は、7月22日(日)10時30分から、続けて母利先生と小野の「官事録」を読み解きます。

なつかしい多賀&縁結びそば
多賀里の駅・一圓屋敷

7月7日(土)の多賀里の駅のつどいは、昭和40年代のなつかしい多賀の風景や、杉、保月、五僧の廃村の風景を、シブヤ写真館の渋谷 博さんがご紹介くださいました。セメント会社の引込線や石灰石を運んだ空中リフトなどの産業遺産の姿が新鮮でした。

試食会は、新開発の「縁結びそば」。地元産トマトで、ほんのりピンク色の多賀そばに、よく見ると麺が「縁むすび」になっている。縁を結ぶ多賀大社のイメージにぴったりでした。



彦根景観フォーラム 入会のご案内

彦根景観フォーラムは、まちづくりを楽しむNPOです。大学教員、建築家、会社員、商店主、公務員などが集まり、知恵と力を合わせて活動しています。年会費 6,000円 詳しくは事務局まで。

● **ブログ** <http://hikonekeik.exblog.jp> (彦根景観フォーラムで検索)

● **定例会** 毎月第3金曜日 午後7時~9時 ひこね街の駅「戦国丸」誰でも自由に参加できます。

● **お問合せ** : 彦根景観フォーラム事務局 TEL 080-1416-5968 FAX 0749-27-1431

E-mail: hikonekeikan@hotmail.com まで



きらっと彦根 vol.29

彦根の魅力 ★ 再発見

彦根まちづくり誌 2012年7月20日 通巻29号 編集/発行 NPO法人 彦根景観フォーラム

それぞれの彦根物語

ひこね街の駅・寺子屋力石 談話室

鍾愷さんにはかなわぬ、波兔

彦根物語91：杉原正樹(DADAジャーナル編集人)



「波兔」とは、波の上をうさぎがとびはねて走っている文様で、神社、寺院、古民家の屋根瓦や欄間などの彫刻、蔵

の窓の装飾などに描かれています。別名を「竹生島文様」といい、能の「竹生島」に起源があるといわれています。

杉原さんは、この波兔を近江発祥のデザインと考え、湖北・湖東を歩き、写真におさめたものを紹介されました。夢京橋の風、埋木舎の釘隠し、蕎麦チヨコ、仏壇の欄間、高宮神社、木之元地藏御手洗、山地酒造横、浅井町野田神社、近江町湯坪神社・・・覚えきれないくらいの画像を見せていただきました。うだつの上があった彦根の民家では、鬼瓦に「兔」と「龍」の文様を組み合わせて「うだつ」を表現していたという発見もありました。彦根市松原町の旅館「ふたば荘」のゆかたには、杉原さんの勧めで波兔が描かれているそうです。どんなにかわいいゆかたでしょうか・・・。



毛筆・硬筆・活字から

変体仮名を使って書き起こす楽しさ

彦根物語92：田中貴光（書家）

日本語独特の文字である平仮名、その美しさの追求のために、田中さんは、現在では使われなくなった変体仮名を使って作品をつくっておられます。

現在の活字平仮名文は、一音一字で書かれています。変体仮名を使うことによって、

- ①さまざまな形の文字を混ぜることで、字面を美しくできる。
- ②同じ文字が文章の中で重ならないようにできる。
- ③字体により長さや幅が異なるので、一行の長さを調整し、前の行の文字との間隔を空けてバランスをとる「散らし」ができる。という効果が生まれます。

紹介された作品は、百人一首の全句を変体仮名で扇型に揃えて書いたもの、掛け軸に扇型の文章を曲線の上に配置し源氏物語の活字本から変体文字を使って書きおこしたものなど、どれも日本の雅(みやび)な美にあふれていました。



《それぞれの彦根物語93》

彦根の「殿様文化」を打破するためには

山田 貴之さん（滋賀彦根新聞社編集長）

日時 7月21日（土）10時30分～12時

会場 ひこね街の駅「寺子屋力石」

特集：彦根景観シンポジウム2012

今井町の歴史的まちなみの保存と再生に学ぶ(2)

今井町並み保存会

会長 若林 稔さん

今井まちなみ再生ネットワーク

理事長 上田 琢也さん

● 足軽辻番所サロン
「諸事日記」をよむ

● 多賀里の駅・一圓屋敷
なつかしい多賀&縁結びそば